

三浦和尚著

『中学校国語科 学習指導の展開

——表現活動を中心として——

副題にも示されているように、この度の三浦先生の御著書は、表現活動を中心とした学習指導の実践が紹介されており、先生御自身が述べられているように「授業の活性化のために、表現活動（表現学習指導）を日常的にどのよう

に学習過程（指導過程）に組みこんでいくか」という課題で貫かれているものである。

学校現場での授業のあり方に日々模索している私達にとって、「潜り橋」「しろばんば」「走れメロス」「百人一首」「トロッコ」など比較的馴染みのある教材を導入として単元的展開を構成している実践例は、非常に魅力的である。三浦先生が施されている工夫に、私達が現在抱えている問題の解決の糸口を見いだすことができるであろう。

また、近年三浦先生が取り組んでおられる教育話法の研究についてまとめられるところは、「教師として話すこと」の意味を改めて痛感させられるものである。

中学生という難しい年代の学習者に、正面から真摯な態度で向かわれた先生の御姿が彷彿としてくる本書を、ぜひ、御一読いただきたい。

（四六判、二〇八ページ、一九九三年九月一〇日、

三省堂、一八〇〇円）

（高尾 香織）